



報道関係各位

11月12日は「皮膚の日」
ニキビに悩む20代女性
ニキビと乾燥の関連 認知は3割以下
ニキビ患者さんの約4割が10年以上ニキビに悩むものの、
皮膚科での治療経験は半数以下

11月12日の「皮膚の日」(日本臨床皮膚科医会制定)を前に、ガルデルマ株式会社(本社:東京都新宿区、代表取締役:ウンベルト・C・アントゥネス)と塩野義製薬株式会社(本社:大阪市中央区、代表取締役社長:手代木 功)は、顔のニキビに悩む20歳代の女性300人を対象としたニキビに関するインターネット調査を実施しました。

ニキビ=過剰な皮脂分泌というイメージが強い一方、ニキビの始まりである「毛穴のつまり」には、乾燥が大きく関与します^{※1}。参考として、実際に過去10年間の医療用ニキビ治療薬販売金額の各月平均値データの3ヶ月ごとの合算では、10月~12月が最も高く^{※2}、夏だけでなく乾燥する秋にはニキビが発症しやすく注意が必要な季節です。

※1 宮地良樹編「にきび最前線」メディカルレビュー社(2006)p.32-35

※2 IMS ジャパン-JPM(2000年4月~2010年3月 (詳細データ p.参照)

《調査結果概要》 *データ詳細 別紙ご参照

1. ニキビが得意やすい原因、「乾燥」の認知は3割以下【グラフ①】

半数以上の方がニキビの得意やすい原因として「ストレス・疲れ」(74.0%)、「不規則な食生活(偏食・脂っこいもの・甘いものを食べる)」(63.3%)や睡眠不足(53.3%)といった生活習慣や生理(58.7%)が影響すると考える傾向が伺えます。一方で、「乾燥」については28.7%と3割を下回る結果となりました。

2. ニキビ患者さんの約4割が10年以上ニキビに悩む【グラフ②】

ニキビに悩む期間として最も回答が多かったのは、「10年以上」(37.7%)、次いで5年~10年未満(21.0%)でした。ニキビは皮膚の慢性疾患であり、ニキビに5年以上悩む患者さんが約6割を占める実態が明らかになりました。

3. 35%の人が、ニキビ1個は体重2~3kg増加と同じストレスを感じると回答【グラフ③】

ニキビは主に顔面に現れ、痕が残ることがあるなど、患者さんのQOL(Quality of Life、生活の質)に大きな影響を及ぼす疾患です。「顔の真ん中にできた1個のニキビは、あなたにとって体重が何キロ分増えるのと同じストレスを感じますか」という質問に対して、「2kg-3kg」が35.0%と最も多く、「10kg以上」と回答した人も3%いました。

4. ニキビ治療のための皮膚科受診、半数以上が「受診経験なし」【グラフ④、⑤】

しかし長年ニキビに悩む一方で、ニキビ治療のための皮膚科受診経験は半数以下と少ない結果でした。ニキビが出来ることでストレスを感じながらも、皮膚の疾患であるニキビの皮膚科受診について、「病院・医院に行ったことはない」と回答した人が62.0%と半数以上に上りました。(グラフ④)

また、皮膚科を受診した経験のない人にその理由を尋ねたところ、「気になるがそのうち治ると思う」、「ニキビぐらいで病院に行くのは大げさだと思う」とニキビは病気との認識が低い実態が明らかになりました。(グラフ⑤)

5. 7割以上が「皮膚科受診は、症状がひどくなったら/自分で色々試してから」【グラフ⑥】

ニキビ治療のために、皮膚科を受診するタイミングについて尋ねたところ「痛みがある・赤く腫れるなど症状がひどくなったら病院・医院に行く」(38.7%)、「自分で色々(ニキビ用化粧品や薬局・ドラッグストアで売っている薬など)を試して、良くならなかつたら病院・医院に行く」(33.3%)と、ニキビが重症化してから、皮膚科で治療を受ける患者さんの行動が浮き彫りになりました。

ニキビ治療に熱心に取り組み、数多くの患者さんを診察されている、村上皮膚科クリニック(愛媛県、松山市) 院長 村上 早織先生は、今回の調査結果を受けて、以下のように述べています。

「ニキビは『青春のシンボル』と言われるますが、医学的には『尋常性ざ瘡』という慢性の皮膚疾患です。

ニキビがしやすい肌の状態は①皮脂の分泌が盛んになる、②毛穴がつまる、③アクネ菌が増殖する、の3つが挙げられますが(図1)、特に②毛穴のつまりには乾燥が大きく関与します。これは、皮膚の乾燥により、肌のバリア機能が低下するためです。このバリア機能の低下により、毛穴の出口の角層もはがれないでとどまり、厚くなって毛穴をふさぐようになってしまいます。

乾燥はニキビができやすくなる原因の1つであり、秋冬も注意が必要です。当院では、ニキビ患者さんが占める割合はおおよそ4割ですが、秋冬の時期はニキビ治療のために受診される患者さんが増えるというのが私の実感です。

ニキビ患者さんの多くは『自分でなんとかしよう』と自己流のケアを行い、長い間、辛い思いをしている方が多くいます。しかし、自分で色々ケアを行っているうちにニキビが悪化し、重症化してしまうケースもあります。またニキビの初期の状態から皮膚科で治療することで、ニキビ痕が残るような炎症の強いニキビへの進行も防ぐことができます。(図2)

今回の調査結果では、10年以上もニキビに悩む患者さん方でも、ニキビと乾燥の関連について、認知は低い結果でした。

世界の標準治療薬が2年前から日本でも保険適用になり、日本のニキビ治療は大きく変わりました。『軽症だから』と自己判断せず、早めに皮膚科を受診しましょう。」

今回の調査結果を踏まえ、両社は、ニキビを罹患した患者さんに正しい情報を伝え、一人で悩まず、自己対処で済ませずに積極的に皮膚科医による治療を受けて、QOLをより向上していただくため、引き続き啓発活動に取り組んで参ります。

図1: ニキビができるまで

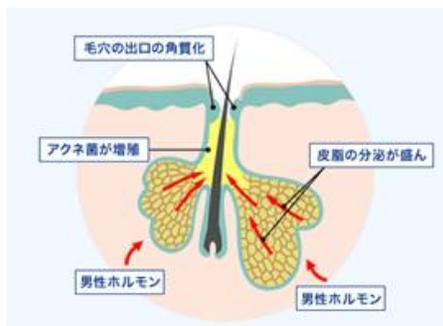
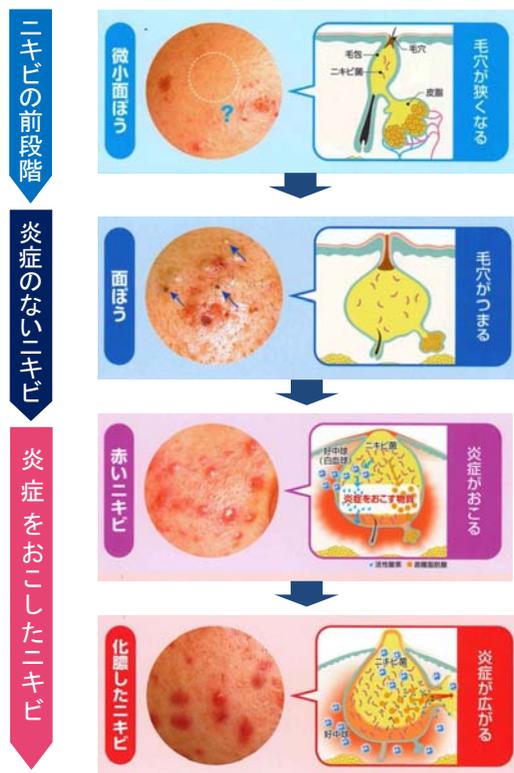


図2: ニキビの進行と状態



以上

■ 調査結果

《調査概要》

調査目的： 乾燥がニキビに関与することの認知およびニキビ患者さんの悩みの深さを把握し、
 ニキビの原因や適切な対処法の啓発に寄与する

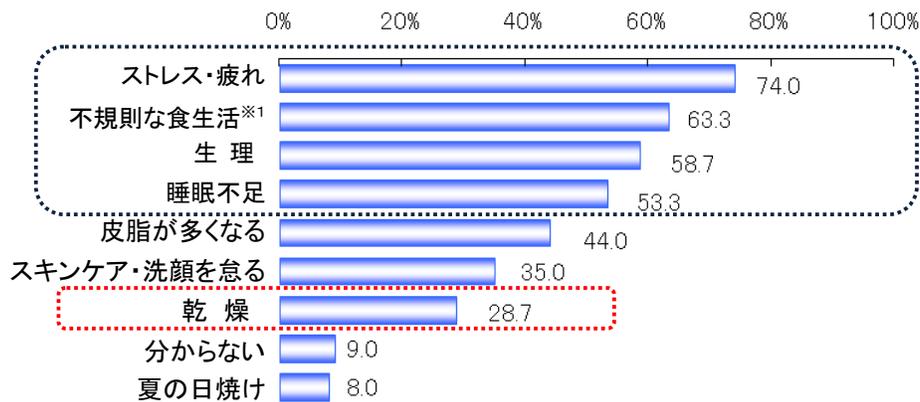
調査時期： 2010年10月1日～10月4日

調査対象： 顔のニキビに悩む20歳代の女性300人

調査エリア： 全国

調査方法： インターネット調査

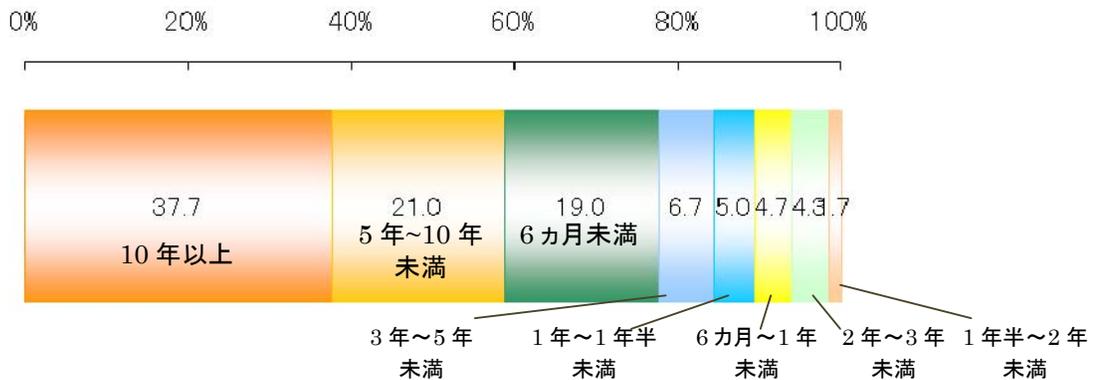
グラフ① Q. ニキビのできやすい原因は何であると思いますか。(いくつかも) n=300



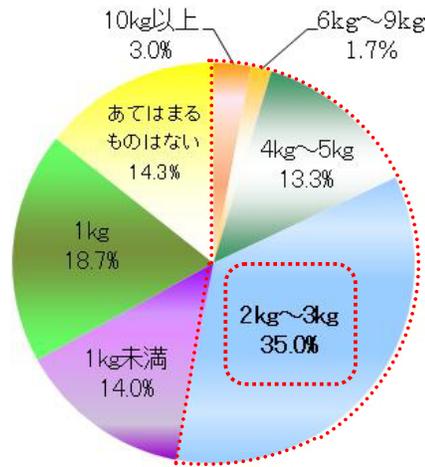
この中にあてはまるものはない | 0.3

※1 不規則な食生活: 偏食・脂っこいもの・甘いものを食べる

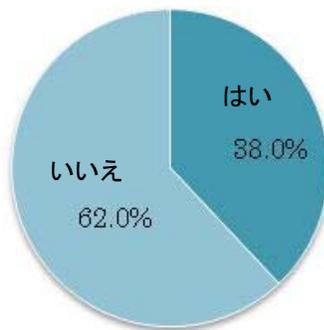
グラフ② Q. あなたが顔のニキビに悩んでいる期間をお答えください n=300



グラフ③ Q.顔の真ん中にできた1個のニキビは、あなたにとって体重が何キロ分増えるのと同じストレスを感じますか。 n=300

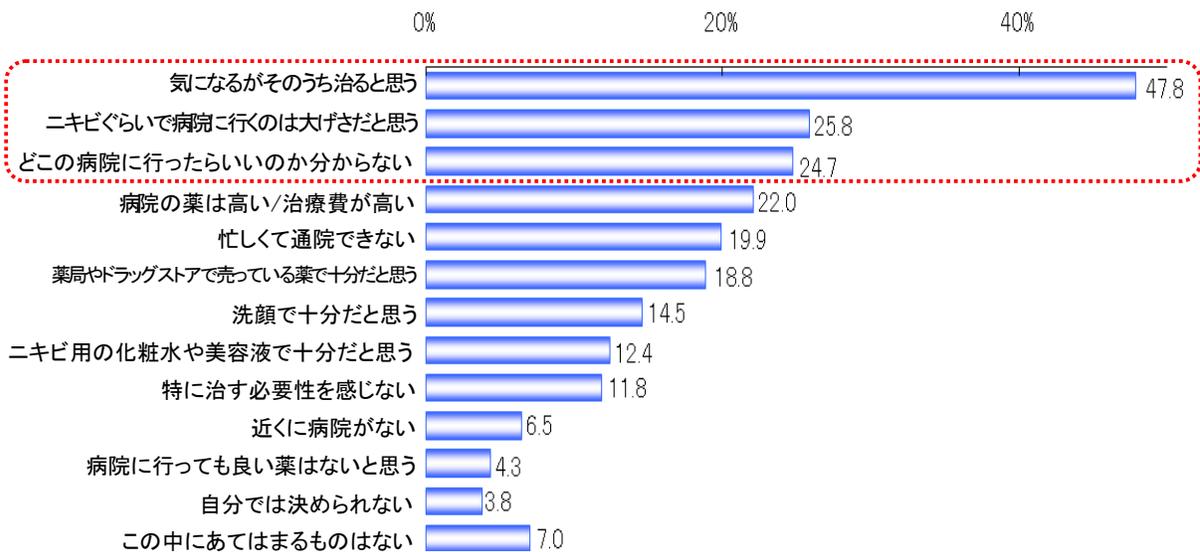


グラフ④ Q.ニキビ治療のため病院・医院に行ったことがありますか。 n=300



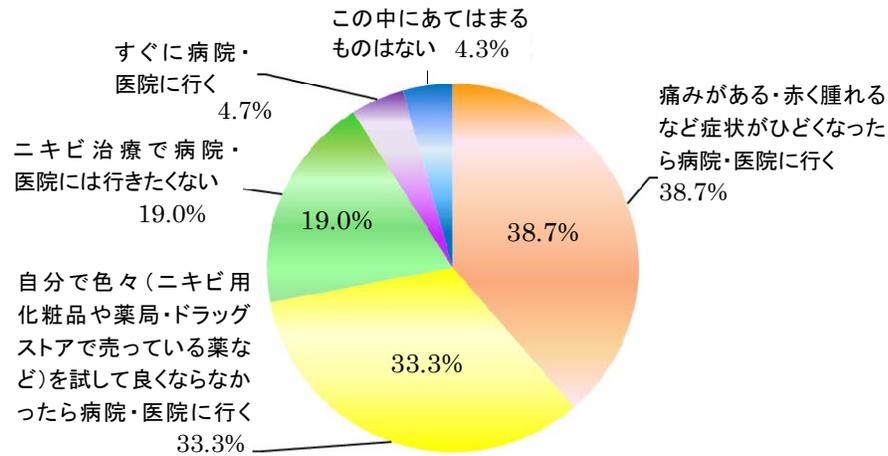
グラフ⑤ Q.病院・医院に行ったことがない理由はなんですか。

n=186 (対象:ニキビ治療のため、病院・医院に行ったことがないニキビ患者さん)



グラフ⑥

Q. ニキビ治療のために病院・医院に行くことについて、あなたの考えに近いものをひとつ選んでください。
n=300



■ 参考資料

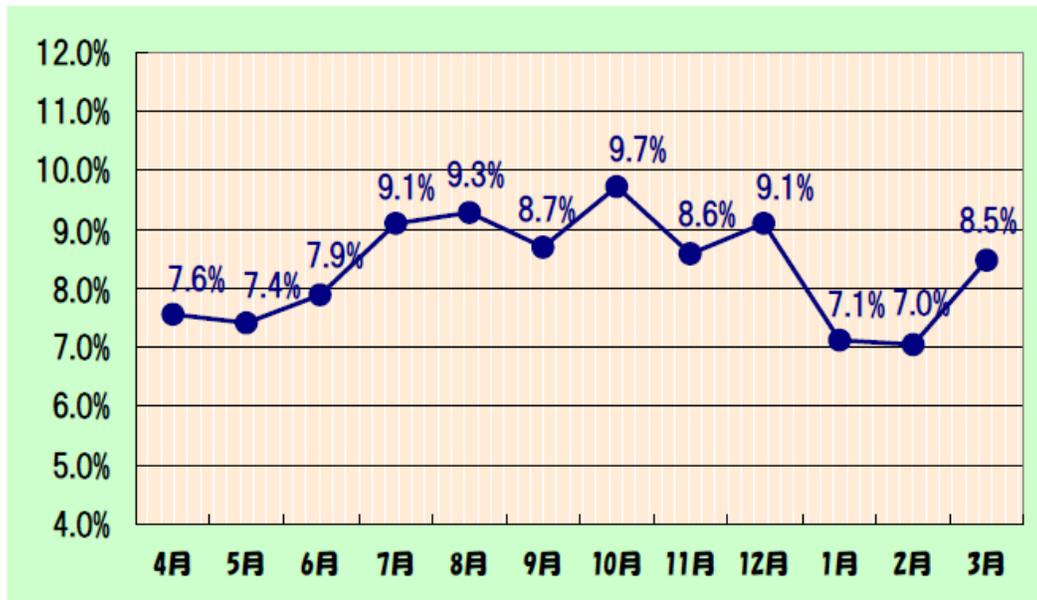
報道関係者各位 下記の資料を引用する場合にはデータ提供元である IMS ジャパン株式会社からの申し入れにより、必ず事前に下記連絡先へご一報くださいますようお願い申し上げます。

連絡先：アイ・エム・エス・ジャパン株式会社 マーケティングコミュニケーション

電話番号 03-5425-9020 Eメール Clearance@jp.imshealth.com

10年間のご瘡(D10A)市場販売金額毎月平均値の年占有率

© 2010 IMS ジャパン(株) 出典:IMS-JPM(2000年4月~2010年3月) 無断転載禁止



■ ニキビ疾患啓発活動について

- ・ キャンペーンサイト ニキビは皮フ科へ.JP (<http://www.nikibi-hifuka.jp>)



■ 尋常性ざ瘡(ニキビ)治療剤「ディフェリン®ゲル 0.1%」について

「ディフェリン®ゲル 0.1%」はガルデルマ社が開発した、レチノイド様作用を有するナフトエ酸誘導体アダパレンを有効成分とする、尋常性ざ瘡(ニキビ)治療の外用剤です。

日本では 2008 年 7 月に製造販売承認を取得し、同年 10 月に日本で初めての尋常性ざ瘡を適応とする外用レチノイド製剤として、ガルデルマ株式会社、塩野義製薬株式会社が販売を開始しました。

本剤は、ガルデルマ社によってすでに世界 80 カ国以上で承認取得・販売されており、1995 年にフランスで発売されて以来、延べ 2,200 万人超の患者さまに使用されています。

「ディフェリン®ゲル 0.1%」の有効成分アダパレンは、表皮細胞の核内レチノイン酸受容体(RAR: Retinoic Acid Receptor)に結合し、表皮角化細胞の分化を抑制することで、ニキビの前段階である微小面皰(びしょうめんぼう)と非炎症性皮疹(面皰: 通称、黒ニキビ、白ニキビ)の形成を抑制し、その後に進展して出来る炎症性皮疹(赤いニキビ)をも減少させます。

従来、国内での外用剤によるニキビ治療は抗菌剤による炎症性皮疹の治療が主流でしたが、「ディフェリン®ゲル 0.1%」は新しいニキビ治療を可能にする薬剤です。

■ ガルデルマ株式会社について

ガルデルマ社は、世界最大の食品会社ネスレ(スイス)と世界最大の化粧品会社ロレアルグループ(フランス)の50%:50%出資のジョイントベンチャーとして1981年に誕生した、皮膚科学専門のグローバル医薬品企業です。現在、世界で3,000名以上が勤務し、70カ国以上で製品を販売しています。

世界的には、ニキビ、酒さ、爪白癬、乾癬・ステロイド反応性疾患(ステロイドが著効を示す皮膚疾患)、色素異常を中心とした皮膚疾患に対するソリューションを広く提供し、すべての方の皮膚の健康向上に貢献すべく、事業展開を行っております。

また、革新的な製品を生み出すために、皮膚科学に特化した研究施設としては世界最大規模である、ソフィア・アンテポリス(フランス)研究開発センターを拠点とした研究活動が行われています。

2009年には、全世界で9億7,800万ユーロ(約1,300億円)の売上(前年比10.8%増)を計上し、持続的成長を目的として研究開発に投資し続けています。

ガルデルマ株式会社は、ガルデルマ社の100%出資の日本法人として1996年に設立されました。

■ 塩野義製薬株式会社について

シオノギは、「常に人々の健康を守るために必要な最もよい薬を提供する」という基本方針のもと、創薬研究開発型企業として、世界中の患者さまやご家族の方々のQOL(Quality of Life:生活の質)向上を実現するために、より一層満足度の高い医薬品をお届けすることをミッションとして、医療用医薬品を中心に、OTC医薬品や診断薬の研究開発、製造、販売活動を行っています。

第3次中期経営計画(2010年4月~2015年3月)におきましては、「SONG for the Real Growth」のスローガンのもと、グローバルに本格的な成長を目指して、グループ一丸となって邁進してまいります。

＜各会社へのお問い合わせ先＞

ガルデルマ株式会社

塩野義製薬株式会社

マーケティング本部

広報室

TEL:03-5229-6955

大阪 TEL:06-6209-7885

FAX:03-5299-6903

FAX:06-6229-9596

東京 TEL:03-3406-8164

FAX:03-3406-8099

＜本件に関するお問い合わせ先＞

フライシュマン・ヒラード・ジャパン株式会社 担当:後藤/永田

TEL 03-6204-4335 FAX 03-6204-4302